

週刊

GAINAX総監修ビジュアル・ガイドブック

新訂版

# EVANGELION

## CHARACTER

エヴァンゲリオン・クロニクル

# 15

定価690円(税込)

2010/5/18

Mechanic Sheet

エヴァンゲリオン 零号機 II

NERV 特殊機器

Character Sheet

冬月コウジ I

Tactics Sheet

第12使徒レリエル戦

Timeline Sheet

使徒、侵入

Technology Sheet

EVA 銃火器類

Extra Sheet

用語辞典 / 企画書 / トピックス



特製バインダー  
発売中!

DEAGOSTINI

解読: deagostini.jp



汎用人型決戦兵器  
人造人間 エヴァンゲリオン

# 零号機(改)



# 実戦 に向け

# 改装を施された 試作機



NERV

# EVA-00'

PROTO TYPE

## 再就役を果たした プロトタイプ

「E計画」における最初のエヴァンゲリオンである試作機。それゆえに不安定な部分があり、初の起動実験で暴走事故を引き起こしている。しかし、再就役を果たしてからは問題なく稼働し、戦闘でも実戦に耐え得るだけのポテンシャルを持つと証明した。なお、機体相互互換試験の際にサードチルドレンが搭乗、制御不能となったが、これは本来乗り手を選ぶEVAの性質上、想定されるケースというべきであろう。また、起動実験の際はファーストチルドレンの精神状態に問題があったとする見解もあり、実際のところ機体自体は正常であったとも考えられる。

制御不能となった零号機には敵意のような意志が見受けられ、その際、赤木リツコ博士は「零号機が限りなかったのは、私ね。間違いない」と独白している。EVAには魂が宿されているとされるが、彼女のこの言葉は何を物語っているのだろうか。

第5使徒ラミエル戦において初号機を庇い、装甲が融解した零号機。その後改装され、第9使徒マトリエル戦で再就役を果たす。



専属操縦者の戦闘適性ゆえか、使徒との実戦において前線に立つことは少なく、主に後方からのバックアップの任に回ることが多い。



機体相互互換試験において、設定が搭乗した際に制御不能となる。そのときシンジは、零号機からレイのイメージを感じ取った。

## DATA

機体：EVA-00' PROTO TYPE

**零号機 (改)**

搭乗者：1st Children

**綾波レイ**

主武器：WEAPON

スナイパーライフル

バレットライフル

プログレッシブ・ナイフ 等

機体配色：COLOR



前面 FRONT



背面 BACK

零号機も、

**バックアップに回ります**

(綾波レイ)

関連事項 RELATED MATTERS

- E計画
- 綾波レイ
- 碓ゲンドウ
- アダム



南極にて発見された未知の巨人をコピーする計画であり、別名「アダム再生計画」。その最初の完成体が零号機である。

## 零号機(改)の構造

単眼の光学モニターを用いた素体に大きな変更はないと思われるが、装甲は先行量産機のものに改装されている。そのため防御面やメンテナンス性は向上しており、肩部パーツにより武装の拡張性も持ち得た。そのため十分に実戦可能な機体性能を獲得している。



マルチウェポン・パイを兼ねる両肩のパーツには、固形燃料を燃焼、ジェット噴出しで高下スピードを制御する非常に効率的な仕組みを持つ。これが他のEVAにも備わっている機構かどうかは定かではない。

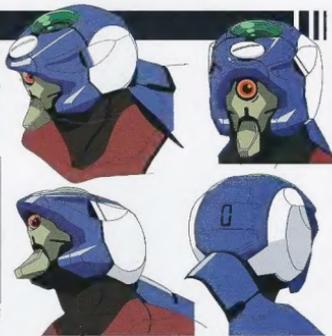
## 再就役での変更点

再就役にあたり機体の最終的な微調整を済まし、実戦可能な域に仕上げられた。素体の性能に変化はないものと思われるが、就作段階の外装から実戦用の外装に換装することで戦闘時の運用性は高まっている。特にウェポンコンテナである肩パーツの装着によって固定武装を得た点が大きな違いといえる。

### ↓レンズ部分

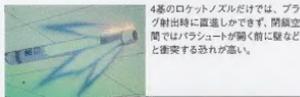


首部のカバー付きの電磁波アンテナと頭頂の赤十字レンズ仕様の電磁波アンテナを持つ。単眼だが操縦者の視界は初号機や式号機と同様。



## プロトタイプのエントリープラグ

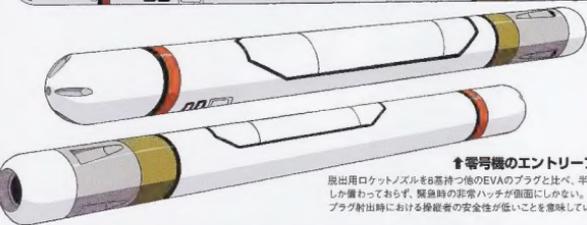
エントリープラグは他のEVAと異なる。EVAを操縦するにあたっての基本性能に変化はないと思われるが、脱出ポッドとしての性能は劣り、操縦者の安全性が十分とは言えない。実際、ファーストチルドレンは射出時の事故により重傷を負っている。



4基のロケットノズルだけで、プラグ射出時に直進しが可能です。閉鎖空間ではパラシュートが開閉に難いなどと衝突する恐れが高い。



メインスライドカバーにはエジェクションカバーが組み込まれていないため、緊急時は非常ハッチを用いて外部から操縦者を救助することになる。



### ↑零号機のエントリープラグ

脱出用ロケットノズルを8基持つ他のEVAのプラグと比べ、半分は4基しか備わっていません。緊急時の非常ハッチが側面にしかありません。これらはプラグ射出時における操縦者の安全性が低いことを意味している。

## 零号機の使用兵器 — 銃火器①

零号機の戦闘スタンスは、銃火器を用いた機体のバックアップが主である。操縦者であるファーストチルドレンの沈着冷静な性格は、タイミングを見定めて援護する遠距離射撃などのサポート役に向いていると考えられる。特に射撃、威力共にバレットライフルを上回るスナイパーライフルは、リスクの高い近接戦闘を避けて機体を援護するのに向ってつけの兵器であろう。

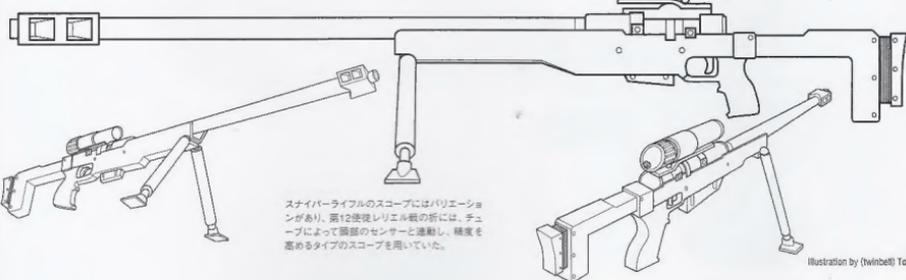


第16使徒アルミスルエル戦では、敵の接近を許さずに攻撃できる遠距離用スナイパーライフルの持ち味を駆使され、近接戦闘に持ち込まれてしまう。その結果、零号機は後性の差を受けることがあった。



第13使徒バルデエル戦では、接近戦を避け、バレットライフルでの戦闘を試みる。しかし、予想もつないバルデエルの動きによって背後を取られ、射撃する間もなく沈黙させられてしまう。

### ↓スナイパーライフル



スナイパーライフルのスコープはバリエーションがあり、第12使徒レリエル戦の時には、チューブによって露部のセンサーと連動し、精度を高めるタイプのスコープを用いていた。

Illustration by (winbet) Tokiko Yuzawa

キャラクターシート

Character Sheet

冬月コウゾウ

Sheet

07

K OUZOU FUYUTSUKI A



碓  
ゲンドウを  
補佐する



NERV



冬月コウゾウ

KOUZOU FUYUTSUKI

沈着冷静な  
副司令官



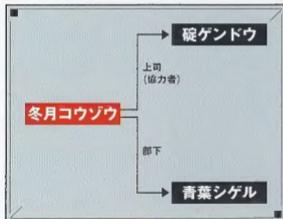
**個人情報**

名前	冬月コウゾウ
年齢	60歳
国籍	日本
生年月日	A.D.1956/04/09
血液型	AB型
所属	NERV/副司令官

特務機関NERVにおいて、常に最高司令官、碓ゲンドウの脇に立ち、その補佐役を担う副司令官——それが冬月コウゾウという人物である。

1999年頃、過去に京都大学にて形而上生物学の研究を専門とし、また教鞭も執っていた彼は、教え子の碓ユイの紹介により、ゲンドウ(当時は六分儀雄)と出会う。その後、セカンドインパクトを経て、2002年～2003年頃、セカンドインパクト調査員として動いていた際にゲンドウと再会。この頃、実質的にはゲンドウと対立関係にあったものの、その後人工進化研究所にて彼と会った後は、一転して協力関係を結ぶこととなる。それ以来、ゲンドウの腹心として、NERV内に欠かさない存在となっている。穏やかさと同時に、年長者らしい厳しさも併せ持つ冬月は、時に非情に過ぎると思われる判断をするゲンドウに助言を与え、彼の意思を部下たちに伝える仲介者としての役割も果たしているようである。

その性質は温厚でゲンドウほど威圧的でないためか、部下たちにもそれなりに慕われている様子である。仕事以外では同僚たちとの付き合いは見受けられないが、これは他人との私的な交流を軽んじているというよりも、研究者的な性質によるところや、年齢差によるところが大きいと推測される。また、詰め将棋などの趣味を持つ彼は、ひとりでも時間を潰すことを苦としないのかもしれない。NERVという場所をひとつの組織として考えた場合、冬月という人間は、ゲンドウとは違う角度で大局を見据えることのできる存在といえるだろう。

**人物相関図**

**関連事項**

- 碓ゲンドウ
- 青葉シゲル
- NERV
- セーレ



特務機関NERVの最高司令官を務める男。人間の組、使徒の異変を察知し、時には強い命令と厳格な判断を下す。

**表情**


一瞬やかな笑顔を浮かべる冬月。年長者らしい表情のひとつである。他のNERVの人間にありかたも、彼の緩やかなイメージを持たないのも特長のひとつだ。



ゲンドウと会話する際は、部下に対する時よりも複雑な表情を見せる。そこからは、ふたりの付き合いの深さが窺える。



一番平の顔しるを感じさせる表情は、彼世との縁の深さにも見られる。非難時にも度を超さなく、こうした落ちるべきある表情を浮かべて対応することが多い。



一わずかに唇をそめた、やや皮肉めいた笑顔。他人に対してだけではなく、自衛的な意味でこうした表情を浮かべることも多々ある。

**制服**
**背面**

一自身の身体を常にNERV制服で包んでいる冬月。制服の内側には、黒いリネンのシャツを着用している。これ以外の服装を着用している事はほとんど見られない。


**正面**

一制服を着用することなく、襟元までしっかりと閉じているのが冬月らしい。なおジャケットのデザインは、最高司令官であるゲンドウが着用しているものと酷似している。

キャラクターシート

Character Sheet

冬月コウゾウ

Sheet

07

K OUZOU FUYUTSUKI A

# 冬月 コウゾウ

## という存在



一常に落ちついた態度を見せている冬月には、珍しい、乗りを獲わにしたような表情。本程の緊急時でなければ、部下たちの前でのこのような表情を見せることはない。



一可司令官にしているときには、罪を犯るに似んでゲンドウの傍らに立っていることが多い。そのためささいなことも、冬月独特の落ち着いた雰囲気を感じ出す要因のひとつだ。

冬月はNERV副司令官という立場にありながら常識的な思考パターンを持つ人間である。使徒との戦闘時、パイロットの生命を慮るような言動が見られることや、使徒に敗北し国連軍に出撃を要請しなくてはならない事態に陥った際に恥を嫌うような発言をしていたことから、その実が見取れる。常識をあまり気にかけることのないゲンドウとは正反対である。そして、NERVという非日常性の高い場所にいながらも、決してそれを放棄しない。保守的とも考えられるが、そういった思考をよとする人間が上層部になくは、組織の運営は立ち行かないだろう。ある意味で、彼はNERVの良心ともいえる存在である。ちなみに、セカンドインパクト直後の混乱期、冬月は無免許医として怪人や病人を診ていたという過去を持つ。これらの事実を考えると、冬月は情に厚い人間性を持つものとも推測される。これはNERV内、特に上層部の中では稀有なものである。

これらのことを考えると、冬月は非常に「人間らしい」存在であるといえるだろう。



暗闇に広がる死の海を見て、罪にまみれても人の生きている世界を望むと言う冬月。これもまた、彼の人間的な面がはらばらりと見取れる言葉のひとつである。



ゲンドウの不在時に使徒が侵襲してきた際は、最高責任者となる。普段の穏やかなとは一転して、厳しい表情を浮かべることも多い。

NERV副司令官としての冬月の主な仕事は、ゲンドウをサポートすることである。ゲンドウが司令席にいる際は常に傍らに立ち、助言を与えているのだが、何かと席を外すゲンドウに代わり、作戦指揮を執る場面も見られる。「認め、昔から雑務はみんな私に押しつけておって」とこぼしているところを見ると、上層部が請け負うべき雑事を一手に引き受けているとも推察できる。サポートの業務のみならず、最高司令官の代行や庶務一般をこなすことのできる冬月は、非常に有能な人物である。また、それだけの業務に耐えろということも、高齢ながら体力的にもタフであるとも見て間違いないだろう。

# NERV 副司令官 としての姿勢

# 司令部 最年長者

## としての役割



息子と3年ぶりに対面するゲンドウを見送る際、微妙な表情を見せる冬月。同僚としてはなく最年長者として、ゲンドウに対してどうもこうもがあったのかもしれない。



使徒との戦闘後、思いをいにするパイロットたちにより司令部内が笑み込まれる中、ひとり面を抱える冬月。年長者ほど、涙をかきたくないものなのだろう。

NERV司令部という場所において、冬月は最年長の人間である。ゲンドウという上司と、部下にあたる職員たちの間においては緩衝剤的な役割を果たしているようだが、その位置をあまり苦としていない様子である。組織内での階級はゲンドウより下になるが、年長者としてゲンドウと対等に接することが可能なのも、冬月のみが持つ特質といえよう。また、部下にとっては、冷徹で威圧感の強いゲンドウよりは、常識人であり温厚な冬月のほうが上司として接しやすい人間であることも間違いない。中間管理職的な位置にいる人間として、冬月は年齢・性質などを考え合わせた上で最適な人材なのである。

# 碇 ゲンドウ

## との関係

「一厘と糸をベースにした脳筋もあって、人も威圧するような強い存在感を放つゲンドウ。同じ藍色ながら、どこかあたたかみを感じさせる冬月とは対照的だ。



「基本的に無表情なため、ゲンドウの思考をその表情から読み取るのは難しいが、冬月ならば多量なりとも彼の考えを理解することが可能なかもしれない。



特務機関NERV最高司令官を務める碇ゲンドウと冬月は、冬月が大学に在籍している頃からの知己である。ゆえに、ふたりの付き合いは15年を超えることとなる。年齢としてはゲンドウより10歳ほど歳上になる冬月だが、決して上からの目線でも言うことはなく、常に対等な関係を保っている。また、ゲンドウのほうも冬月に対し敬語を使うことはなく、完全に対等な存在として接しているようだ。

その態度ではっきりと見せることはないものの、ゲンドウは冬月にかなりの信頼を寄せているものと思われる。他人への関心が希薄なゲンドウが、常に傍に置く者として選んだということが、その証であるといえるだろう。また、EVAに関する事案、人類補完計画を中心とする一連の事案についての真実を知る人間で、かつ、対等な立場で会話をできる人間となると、冬月が唯一の存在である。ゲンドウにとつての冬月はたったひとりの「よき理解者」であり、冬月もまたその立場に置かれていることを強く自覚しているようだ。



司令官では、声をひそめてゲンドウと会話する場面も多々見られる。ゲンドウが常に冬月を傍に置くのは、他人に委ねられてはならない会話が多いこともあるだろう。



機内電車で出立った際、副都内の面持ちで冬月に挨拶する青葉（左）。顔にとっての冬月は、異敵の対象になっているようだ。

NERVの中枢部であり、作戦行動の立案と指揮を行う中央作戦司令部。その作戦司令部付オペレーターを務める青年、青葉シゲルは、司令部にて指示を出す冬月の直属の部下である可能性が高い。青葉の同僚である日向マコトや伊吹マヤには明確な直属の上司がいるのだが、青葉には存在しないこと。また、他のオペレーターたちと比較して、冬月が青葉に直接指示を出すことが若干多いことなどがその理由である。とはいえ、年齢や階級差、またそれぞれの性質も影響してか、このふたりは職務を進める上で会話を交わす程度の関係であり、私的に深い繋がりを持っている訳ではないようだ。

# 青葉 シゲル

## との関係

# ゼーレ

## との関係



特務機関の機密を目撃し込んでしまった際、冬月はゲンドウへの率直な忠告でゼーレに注意、拘束されることとなりました。

特務機関NERVの上位組織にあたり、人類補完計画の完遂を目指している秘密組織ゼーレ。冬月がゼーレに対し興味を持ち始めたのは十数年前、碇ユイの背後にある組織としての存在を知った時のことだった。その後、セカンドインパクトの原因調査の過程においてゼーレに憎悪の感情を持つものの、結局はゲンドウの誘いによりNERVの一員となり、ゼーレとも関わりを持つことになる。

しかし現在においても冬月は、ゼーレに対しあまり良い感情を抱いていないようである。ゼーレの面々を指して「老人ども」などと口にいっているところからもその感情の一端が見て取れる。

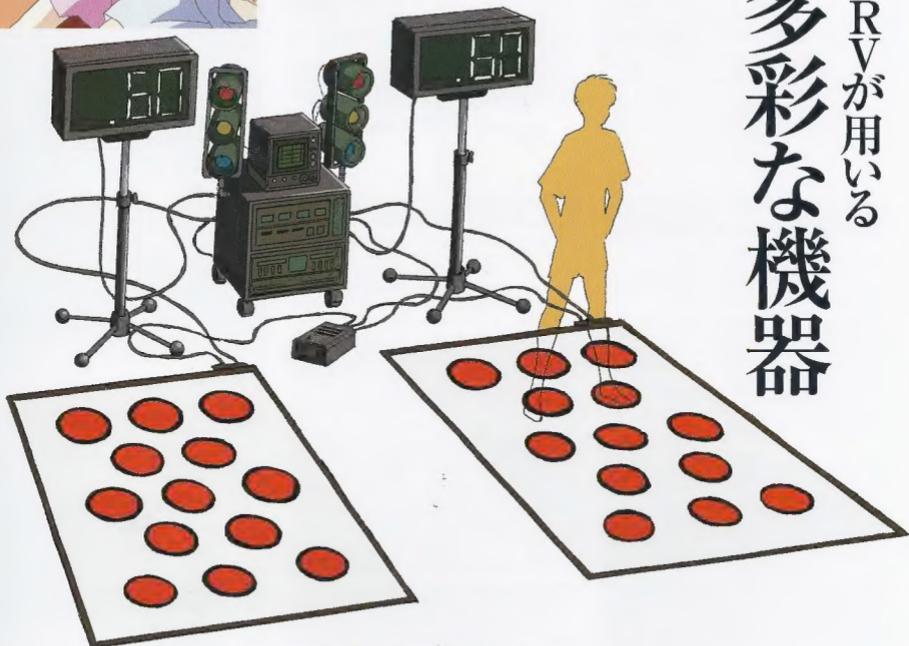


# N

## ERV特殊機器

NERVが用いる

多彩な機器



調査や研究開発を主目的としていたゲルヒンを前身に持つ組織だけあり、NERVは高い開発能力を誇る。そのため、EVAの装備から訓練道具、スタッフの支給品までを含め、国産の制式採用品では賅えない機器などはNERVによって製造、運用されているようで、NERV製の機器は様々に用いられている。

技術開発部では、作戦に必要であれば、既製品を加工するだけではなく、一から作り出すことも多い。これらはEVA専用改造開電子砲のように急造品が多いものの、短期間で実用可能な機器を仕上げる有能なスタッフと技術力を抱える証でもある。

NERVが開発する機器は、セキュリティカードなど機能一辺倒のものから、特殊訓練器のように遊び心が取り入れられた粋なものまで幅が広い。これはNERVという組織における人材の豊富さと運用の柔軟さを表しているひとつの事例といえよう。



NERVの手にかかれば、既製品の機器でも改造を施し、取り入れた「遊んで学ぶ」の趣意が生まれ変わる。



セキュリティカードの読み取り装置

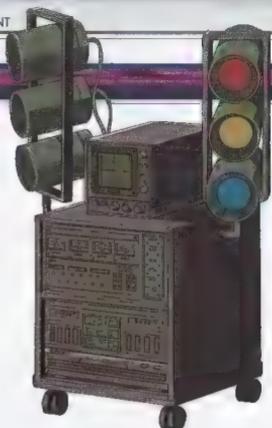
# NERV Special Equipment

## 特殊訓練器

被験者ふたりのユニオンを短期間で可能とするための特殊なトレーニング機器。第7使徒イスラフェルのコアを二点同時に破壊するため、EVA操縦者(セカンドルレンとサードルレン)には、完璧なユニオン能力が求められた。第6使徒ガゼル戦でふたりが起こして見せた最大シク口率の更新劇があったことも、シンジとアスカにユニオン攻撃が既された理由のひとつである。



フィクサーゲームのように、光った場所を攻めと押さえていき、間違った場所を押さえると失敗となる。しかも、いかに相手と同時に且つ早く押しつけていけるかが採点の基準となる模様。

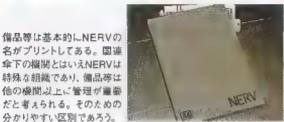


## NERVの支給品

NERVスタッフに支給される身分証明のIDカードや、本部の入出入りに使うセキュリティカードなど、第3新東京市での生活に繋がるものも多い。



国際公務員でもあるNERVスタッフには、組織の権限や身分証明などが支給される。ただし、当然ながら勤務者各人のセキュリティレベルにより、支給される品物は異なってくると思われる。



備品等は基本的にNERVの名がプリントしてある。国連地下の組織とはいえNERVは特殊な組織であり、備品等は他の機関以上に「管理が厳格」と考えられる。そのためのかかりやすい「区別」であろう。

## セキュリティカード

NERV本部施設内を行き来するために必要なパスカード。ただし、どのエリアでも通れるわけではなく、カードごとにセキュリティレベルが設定されていると思われる。また、保安措置としてカードは定期的に更新されている模様。



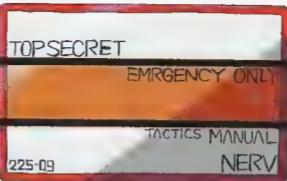
サードルレンが第3新東京市を去る直前を見た際に、ユーザ権限等は抹消されている。なお、本部入り口である第1乗入ゲートに適合す、ゲートの液晶モニタ部分に捺印と時刻が表示される仕組み。



## 緊急マニュアル

非常時の対応カード。様々な非常事態を想定し、そのケースごとに対応方法が記されたもの。新武器が考慮されており、プラスチック製のカード内に対処法が書かれた紙製マニュアルが封入されている。そのため、取り出すときはカードを二つ折りして中からマニュアルを取り出すという、使い切りの備品である。なお、中には本部へ至る様々なルートなど機密に触れる事項が記載されているため、NERVにおける重要な勤務者にものみ支給されていると考えられる。

## ↓カード表



ファーストルレンがカバン内に携帯しており、第3新東京市が停電に陥った際に、ここでNERV本部へ通じる非常用のルートを確認した。

## カード裏→

## ↓使用方法



## NERVマニュアル

NERVに関する勤務者用の資料。大きさはA4変形版。通地強いための紙の封印が施されており、開かれたことが分かる仕組みになっている。また、本の裏面には通し番号が添らされており、厳重に管理されていることが分かる。



カードルレンが第3新東京市に到着した際に、機密、封印が手触されている。エンゲルマン君を見たらこれで開けようとするが、EVAに機密確認であるためマニュアル程度は開けていなかった。



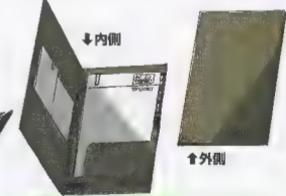
## ↑表



## ←裏

## ドキュメントホルダー

A4サイズの書類を入れるためのケース。磁気クリップによって閉じられ、中には書類を管理するためのバーコードがある。公平計量機からEVA文字コードを復元する際に使われ、非常用電源ソケットの使用要領が書かれていた。



- NERV
- 変シンジ
- 変シンジ
- 変シンジ
- 変シンジ
- 変シンジ

使徒攻撃を任とする国連の特殊機関。その性質上、勤務者には厳しい守秘義務があり、場合によっては監視もつくようだ。

# E

エクストラシート  
xtra Sheet

## 用語辞典

## GLOSSARY

## Sheet

## 22

## 第3執務室

長野県、第2新東京市の首相官邸内にある第3執務室。室内には巨大な垂り灯があり、このような執務の際に使用される部屋なのかは不明である。首相官邸執務室も参照。

## 第3使徒

セカンドインパクトより15年を経て、第3新東京市を襲撃した第3使徒サキエルのこと。破シヅが初めて搭載するEVA初号機と交戦した際、初号機を立脚したまで追い込みが、その後暴走した四輪によりコアを破壊されそうになり自爆した。サキエルも参照。



第3使徒は人間並にかなり近い形状を持っていた。これは使徒の中では珍しい方である。

## 第3循環パイプ

溪間山での使徒格闘作戦において、火口に溜ったEVA式号機を冷やすために用いられる冷却液循環パイプの内の1本。



この第3循環パイプに冷却液の圧力をすべて供給する管路を利用して第3使徒サンダルフォンを破壊した。

## 第3新東京市

NERVの偽装迎撃要港都市。セカンドインパクト後、日本政府は新型機で壊滅的打撃を受けた東京都に代わり、暫定的な首都機能を長野県松本市に持たせて第2新東京市を改称し、遷都した。その後、2004年に第二次遷都計画が国会で承認され、芦ノ湖付近にて施工された都市が第3新東京市である。地下にあるジオフロント内には特務機関NERV本部が置かれ、その関係者もほとんどが市内に居住している。基本的に対使徒迎撃要港都市として機能するこの都市の市街には、各所にEVAの射出口や、ビルに偽装されたEVA電力供給スポット、兵器格納庫、回収スポットなどが配置されている。また、戦闘形態に移行する際には、中央の9ノログがジオフロント内に収容されるようになっている。その場合ビル格がジオフロントの天井（人工天蓋部）より垂れ下がるような状態となる。第3使徒サキエル襲撃した際、都市はまだ完成しておらず、第12使徒リール機滅後の時点で第7次建設まで施工が進み、迎撃システムはようやく完成、建設計画は最終段階にさしかかっていた。その後、使

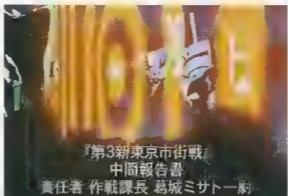
徒の襲撃により壊滅的な被害を受けた第3新東京市は、第16使徒アルミサエルとの戦闘におけるEVA初号機の自爆によって都市の大部分が氷凌、壊滅的な打撃を受けた。最終的に、戦艦自衛隊の兵器によって跡形もなくな滅する。



実質的な首都である第2新東京市と比べ、都市としての規模ははかばかである。あくまで要港都市としての機能が優先されているためである。

## 『第3新東京市街戦』中間報告書

第3新東京市街戦について、責任者であるミサトが作成・提出した中間報告書。第3新東京市街戦とは、EVA初号機と第3使徒サキエルの戦闘の名称で、第1次地上戦闘とも呼ばれるもの。その内容は、経験なしでEVAを操縦し戦闘したシヅの功績、作戦経路としての問題点及び反省点などについて触れられている。



第11使徒がNERV内に侵入したとの報告を受け、セーカが事実確認のため収集した情報の中にこの報告書もあったようだ。

## 第3新東京市ゼロエリア

第3新東京市の中心部で、ジオフロントにあるNERV本部の直上にあたるエリア。第5使徒ラミエルは、この地点に留まりシールドで弾頭を閉じ、本部への直接攻撃を目論んだ。



都市の中心部だけに、様々なビルが存在する。通常時は民間人が利用することも多いであると推測される。

## 第3新東京市地下F区第6番24号

第3新東京市と称されるシヅが転居するはずだった住所。地下F区第6番24号にある。実際のところ彼はこの住所に用意された居室を見ることなく、葛城ミサトのマンションに引

き取られることとなった。

## 第3新東京市地下F区 | 住居詳細

階層	用途
1	住居
2	住居
3	住居
4	住居
5	住居
6	住居
7	住居
8	住居
9	住居
10	住居

シヅが初めてEVAで戦闘し、自爆したすぐ後に、もう住居跡まで消滅されている。ここにはシヅ以外誰も入居していない様子。

## 第3新東京市立第老小学校

第3新東京市にある小学校。小学2年生になる鈴原トウジの妹もここに通っていたものと思われる。



緊急避難訓練のプリントの中で、第3新東京市の2年生は高等小学校低学年定数の5年生という課程が与えられている。

## 第3新東京市立第老中学校

第3新東京市にある中学校。山の真中あたりに建てられており、EVAのR20発進口が近辺にある。NERV内での中学校を指す接頭辞「D」ナンバーは707であり、第3新東京市内における中学校はこの一校のみで、真武中学校は存在しない。なお、破シヅの所属するクラス2-AにはEVAの機体運搬格者の被爆として14歳の少年少女が集められていたが、それについては隠蔽とされており、NERV内でも一部の人間しか知ることはなかった。



一般的な中学校にしか見えないが、その真にはEVA機体運搬格者を集めるという秘密が隠されていた。

## 第3新東京市環状7号線

第3新東京市内を囲む環状線のひとつ。破シヅが第4使徒シアンネル機のもと葛城ミサトの車を弄出してから、行くあてのなかった彼はこの路線の列車に乗し、終電時刻までの時間を潰していた。停車場には長尾純、桃瀬合などがいる。



多くの民間人がこの路線を利用しているようだ。第3新東京市における主要な路線と思われる。

## 第3装甲板

EVA初号機の胴部に装備されている装甲板。第6使徒ラミエルの加圧装置による攻撃を受けた際、この第3装甲板までが融解した。3時間をかけて新しい装甲板に換装している。



「あと3秒放射されていたらアウトでしたけど」は伊吹マサの言。この第3装甲板の直下には機体中程があるものも推測される。

## 第334地下避難所

GEO-SHELTER334。使徒襲撃などの緊急時、特別非常事態宣言が発令された際などに使用される地下シェルターのひとつ。第3新東京市防災課が管理される。総床面積2,000㎡、最大収容人員250名。第4使徒シャムシエルが現れた際、このシェルターに多くの民間人が収容され、その中には碓シンジのクラスメイトの岡本ヒカリ、鈴原トウジ、相田ケンスケの妻があった。クラスごとに避難所が異なるようで、2-Aの生徒はここに避難するものと思われる。



シェルター内には特に施設などは用意されておらず、各々が用意したシートなどによって非常事態宣言の解除を待つようだ。

## 第11使徒

細菌サイズの第11使徒イロウルのこと。シグマユニット内の第87タンク壁より侵入、MAGIシステムをハッキングしてメルキール・バルタザールを掌握、NERV本部の自律自律を操縦、決壊する。しかし赤木リツコの提案によりカスパーから進化を促進する自滅促進プログラムを送り込まれたことにより消滅した。ただし、NERV本部侵入の事実は碓ゲンドウによって伏せられ、それを訝しんだ人類補完委員会が特別召集会議を開く事となった。イロウルも参照。



EVAの攻撃以外の方法により壊滅された使徒という意味で、その存在は稀有なものであった。

## 第15使徒

衛星軌道に出現、停滞して攻撃を仕掛けてきた第15使徒

アールのこと。直線攻撃を仕掛けてくることではないものの、エネルギー波を使用した心理攻撃によりEVA初号機に搭載する鎧造・アスカ・ラングレーの精神に大きなダメージを与え、EVA初号機を活動停止に追い込む。その後、EVA初号機が脱出したロンギヌスの槍により壊滅された。アールも参照。



エネルギー波を発生して心理攻撃を仕掛けてくるは、アスカの精神委員長を探り、人の心を知ろうとしているようでもあった。

## 第13使徒

EVA3号機に寄生した第13使徒バルディエルのこと。3号機の運搬途中に遭遇した積乱雲に潜み寄生したと推測される。その後3号機を襲った使徒は、EVA式号機及びEVA電号機を相次いで沈黙させた。EVA初号機に襲いかかった。しかし、ダメージシステムを起動させた初号機により壊滅される。バルディエルも参照。



EVAに寄生して踊った使徒。ユックピット両側に輪状の物体が確認されているが、その実体は不明。

## 第10使徒

自らを質量爆弾と化した第10使徒サハウィエルのこと。試行の末、自らを第3新東京市に落下させ、NERV本部の破壊を目論んだが、着地直前にEVA3機により展開されたA.T.フィールドにより受け止められ、その後EVA式号機のプログラム・シブナイフにて襲撃され壊滅された。サハウィエルも参照。



A.T.フィールドの攻撃による攻撃に利用したのは、第10使徒が最初である。

## 第17次中間報告

人類補完計画の進捗について、碓ゲンドウがキール・ローレンツより人類補完委員会に提出した中間報告書。人類補完計画の進捗が2005年、以来2015年まで17回の進捗報告を重ねていた様子。

# 極秘

## 人類補完計画

17次中間報告書

### 第17次中間報告

人類補完計画  
2015年度及計画17年度  
報告書

表紙には「人類補完委員会2015年度業務計画概況報告書」との記述がある。

## 第17使徒

フィスチルドレン・ランカールとしてNERV本部に送り込まれた、第17使徒タプリスのこと。EVA式号機を操りターミナルドグマへと降下してアダムの複製を試み、アダムとされている存在の正体をリリスと看破する。その後自ら死を望みEVA初号機によって拒絶された。タプリスも参照。



第17使徒は、唯一の完全なヒト型の使徒であった。

## 第12使徒

内向きA.T.フィールドで支えられた、影のような格闘の虚数空間を本体とする第12使徒レリエルのこと。本体に足を踏み入れたEVA初号機を本体内に取り込んだが、再起動した同機に内部から壊滅された。レリエルも参照。



空中に浮かんでいる白と黒の球体は本体ではなく、こちらが影である。



## ●NERV本部

02 シンジたち、  
ハーモニクス試験に参加

NERV大深度施設で、シンジたちEVAパイロットが実物を模したシミュレーションプラグに裸で乗り込んでいた。プラグスーツの補助なしに直接ハーモニクスを計測する実験なのだ。「おお、重い運い。MAGI様様だわ」感嘆するミサト。初実験で1ヶ月かかったものが、いまや即座に処理されるのである。だがそんなMAGIシステムの働きを横目に、リツコはつぶやいた。「ブレンマが、作った人間の性格が伺えるわね」



念入りをボディークリーニングを受けた3人がプラグに乗り込む。「いつもと違う気がする。不思議な感覚に戸惑うシンジたち。」

「あれを作ったのはあんたでしょ？どミサ。だがリツコは、自分はシステムアップのみで本体を作ったのは母だと答える。」

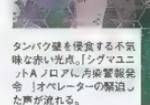


## 03 汚染警報が発令される

そのころ発令所には小さな異変が報告されていた。3日前に購入されたパーツの一部が異常しているようなのだ。第87タンバク壁にできた小さな染みのような変質部分も、明日までに処理するように冬月は命じる。その話を小耳に挟んだリツコは、テストに支障はないとして実験を続行した。模擬体を經由してシミュレーションプラグをEVAに接続する。耳障りな警報が鳴り響いたのは、その直後だった。



異常の理由を、工期の圧縮による手抜き工事のせいだろうと推測する青葉。「無理なですよ。みんな後れってますからね」と日向。



タンバク壁を侵食する不気味な赤い光点。シグマユニットAフロアに汚染警報発令。オペレーターの顔近くで声がかかる。

## 04 EVA模擬体、侵食される

タンバク壁の異常が爆発的に増殖しはじめ、リツコは即座に実験の中止と侵食された第8パイプの緊急閉鎖を言い渡す。さらに壁伝いに進行する侵食に対してはボリンフォームによる熱処理を指示した。だが番号換の模擬体がすでに汚染されていたため、リツコはプラグの緊急射出を実施し、その後、最大出力のレーザーが侵食部に向けて発射された。だが先発はA.Tフィールドによって跳ね返されてしまった。



レイの小さな悲鳴と共にもがくような動きを見せはじめた番号換の模擬体。接触態勢は危険と見たリツコの対応はすばやかだった。

「A.Tフィールドが、まさか！」驚愕するミサトとリツコ。常軌を逸したタンバク異常の正体は、第11層目の使徒だったのだ。



## ●NERV本部

## 06 使徒、MAGIシステムに侵入

ついにMAGIシステムが侵食されはじめる

使徒を分析したリツコは敵が簡単に覗いものと推測。ただちに汚染部へオゾンが注入された。だが、使徒はオゾンにたやすく順応したばかりか、マイクロマシンサイズの身体で電子回路を構成し、警備用コンピュータをハックしはじめた。使徒はMAGIへ侵入する気なのだ。ゲンドウはただちにOシステムダウンを指示するが、すでにそれも使徒の管制下にあった。そしてついに使徒がメルキオールへ接触を開始した。



「使徒の侵入は、Oシステムダウンの真の目的、狙われたのはここです。」

使徒のすさまじい機動力にリツコは身体と感情の波打った声を上げる。「だいたい進化しているんじゃないか……」



タンバク壁に侵入されるOシステム。ゲンドウはオゾンを注入し、Oシステムをダウンさせる。しかし、使徒はオゾンにたやすく順応したばかりか、マイクロマシンサイズの身体で電子回路を構成し、警備用コンピュータをハックしはじめた。



ある模様を形成する使徒は、それはまさしくコンピューターの世界に侵入したのだ。

07 メルキオール、本部施設の  
自律自爆を提訴

それは解く間のことだった。「ダメです、使徒に乗り取られます」「ママが悲痛な叫びを上げ、使徒にリプログラムされたメルキオールが自律自爆を提訴する。だが3基の合議制で決議するMAGIシステムは、バルザールとカスパーがその提訴を否決する。すると使徒は新たな手段を講じた。



恐ろべき速度で進む使徒に、職員たちは翻弄される。

「自律自爆が連鎖されました——告発」緊急感情な合成音声が発令所に流れる。

他の2基によって  
否決される

メルキオール、  
自律自爆を提訴

メルキオールへの  
ハッキングを開始

使徒、MAGIシステムに  
侵入

使徒、自らの身体で  
回路を形成

ゲンドウ、EVA3機の  
射出を指示

汚染源が使徒であることが  
判明

シンジたち、模擬体から  
射出される

A.D.2015

08 使徒  
バルタザールに侵入

使徒に乗っ取られたメルキオールがバルタザールを覆蓋しはじめた。オペレーターが必死にそれを食い止めるようにするが、あまりの速度に対抗できない。その時、リツコがロジックモードの変更を指示。処理速度を極端に落とすことで、敵の侵食速度を低下させたのだった。



必死にキーを叩くオペレーターたちだったが…

リツコのひらめきによって、一瞬はいくばくかの遅延を稼ぐことに成功した。



09 リツコ、使徒殲滅案を提示

進化の終着点を目指す作戦が立案。ただちに対策会議が開かれた。使徒の正体は劇的な速さで進化するマイクロマンである。ミサトはMAGIの物理的消去を提案するが、それは本部の破棄と同義だとリツコが反論する。さらにリツコは力強く言った。「使徒が進化し続けるのなら勝算はあります」彼女の提示した作戦は、速さを強制的に促進させることでその終着地点、すなわち「死」に到達させようというものだった。



「優れた科学者である彼女はE計画の責任者として、MAGIシステムについても無知していた。

マイクロマンサイズの使徒はあらゆる状況に動ける系統を構成し、自らを爆発的に進化させる。



「私のスエから始まったじじいの…」  
「さっさと早くリッポ、ミサト…」  
「さっさと早くリッポ、ミサト…」  
「さっさと早くリッポ、ミサト…」

カスパーから逆ハックをかけて自身を保護し、ロジックモードを切り替えた。リッポとミサトは、この作戦の勝利を待たずに、

A.D.2015

12 使徒  
カスパーに侵入

バルタザールをも乗っ取った使徒が、ついにカスパーに侵入を開始した。けたたましく響く警報。多数決で自爆が決議された今、カスパーが支配されれば、ただちにそれが実行されてしまう。だが、リツコだけは「大丈夫、1秒近くも余裕があるわ」となおも冷静だった。



バルタザール陥落。即座に自爆自爆が決議された。

自爆が決定すれば本館は崩壊しない。自爆装置の作動まであと数秒を残すのみ。



13 使徒、殲滅

水際の戦いで、リツコは際どい勝利を収めた

「1秒って！」思わず振り返るミサトに、「ゼロやマイナスじゃないのよ」と返すリツコ。キーの上をすさまじい速さで指が滑っていく。やがて合成音声のカウンタダウンがはじまった。3秒、2秒……。「押して！」リツコの合図でリターンキーを叩くなり、一瞬後、使徒に覆いつくされようとしていた画面が逆転し、MAGIシステムは自爆を解除したのだ。オペレーターたちは露骨な声で脱走することに喜びの声を上げるのだった。



「リッポは自爆自爆…」  
「リッポは自爆自爆…」  
「リッポは自爆自爆…」



自爆実行のわずかに遅れた雷…部分が、瞬く間に高次元エリアを覆いつくす。それはまさにリッポの勝利だった。



「一瞬の隙のあと、危機を乗り切った」と知った言葉たちにはリッポが「さっさと早くリッポ、ミサト…」とつぶやいた。



「脱走を強いられたらいいえ、息を吐くようにリッポ、ミサト…」とつぶやいた。

2015年

使徒、バルタザールへのハッキングを開始

リツコ、ロジックモードの変更によって侵食速度を低下させる

自滅促進プログラムの導入が決定される  
リツコ、使徒殲滅案を提示

リツコ、MAGIシステム本体を調査



タクティクスシート

actics Sheet

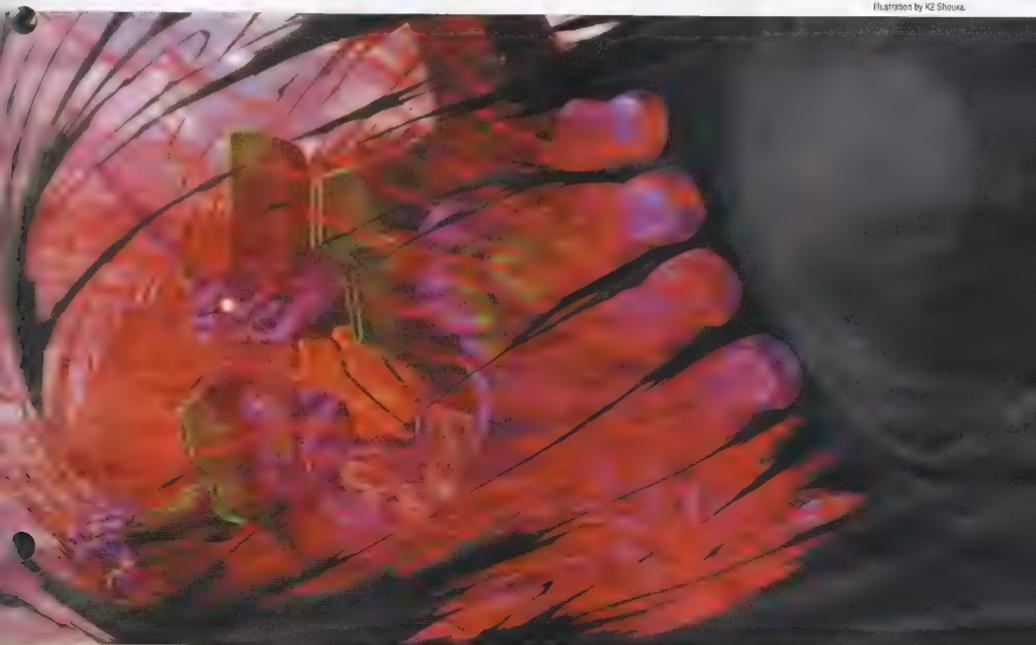
第12使徒レリエル戦

Sheet

18

HE TWELFTH ANGEL LELIEL ANNIHILATION BATTLE

Illustration by K2 Shouwa.



第12使徒レリエルの内部に落ちた初号機であったが、そのヴァルヘン作戦が実行される直前、初号機は使徒の“影”の部分に相当するはずの球体の内部をぶら破り、自力で脱出してきた。相手を上げて、使徒を内部から引き裂く量は、敵そのもの。そして、使徒の体液を全身へ浴びた瞬間は、血にまみれたように赤く染まり、見る者を畏怖させた。

## 使徒からのリアフロー

### ディラックの海——

#### 使徒内部に取り込まれた初号機

##### TACTICS SHEET

固有波形パターンの99.99%までがヒトの遺伝子と同一とされる使徒ではあるが、果たしてどの程度の意識や思考といったものが存在するのかは、全くの謎とされている。しかし、その謎を解く糸口となるかもしれない出来事が、第12使徒レリエルとの戦いで偶発的に発生する。この戦闘において、使徒は対象を体内に取り込むという特異な形ながら、初号機と同パイロットへの接触を試みたこととされ、その思考レベルの一端を垣間見せた。

当初、NERV本部は、実体と影の関係が相反しているという、使徒の中でも極めて特異な特徴を持つ敵の能力を見抜くことができず、使徒の“影”である浮遊する球体を本体と誤認して、攻撃プランを作成。結果、万事が後手に回り、初号機を使徒本体の内部に拮がる虚数空間——「ディラックの海」に呑み込まれ、ロストするという想定外の事態

が発生した。これを受けて、攻撃は中断、撤退を余儀なくされ、作戦は使徒の殲滅から初号機回収へと変更されることとなる。

一方、使徒内部に閉じ込められた初号機のパイロットは、各種センサーを用いて使徒内部の空間を探索後、(期待できる成果は得られなかったこともあり)自力脱出を断念。非常用である生命維持モードにてエントリープラグ内で救助を待つという行動を取っている。一説によれば、この時、パイロットは“もうひとりの自分との会話”を体験したとされており、それは使徒とのなんらかの接触(ある種のコミュニケーションとも換言できる)の結果であったと想定される。しかしながら、エントリープラグに充填されていたL.C.L.溶液の汚濁、長時間閉塞空間に閉じ込められたことによる精神疲労に起因するパイロットの意識混濁などを考慮すると、幻覚を見たに過ぎないという捉え方もあり、今後一層の検証が必要であろう。

最後に初号機回収とレリエル戦の顛末だが、驚

くべきことに活動限界を超えていたはずの初号機が使徒の内部から自力で脱出。さらに、この脱出劇の際、初号機は敵の“影”を内部から引き裂いて、使徒を殲滅している。のちの調査で、脱出時のパイロットは意識不明であったことが判明しており、明らかに初号機が何からの要因により(これも非公式ではあるが、パイロットは意識がなくなる直前に、亡き母親の幻覚を見たといわれており、ここに特別な因果関係を指摘する向きもある)、完全な自律活動を行っていたこととなる。その行動は暴走状態に近く、あたかも初号機が意志を持っているようであったとの報告もあり、EVAシリーズの驚くべきポテンシャルを我々に知らしめたといえよう。

#### RELATED MATTERS

- ▶ 第12使徒レリエル
- ▶ 強制サルベージ作戦
- ▶ ディラックの海
- ▶ A.T.フィールド



第3新東京市に出現した第12使徒レリエル。上空に見える巨大な球体は“影”でしかなく、実体は別にある。

タクティクスシート

actics Sheet

第12使徒 レリエル戦

THE TWELFTH ANGEL LELIEL ANNIHILATION BATTLE

Illustration by (twicebell) Tokiko Yuzama / Akiro Uihama

## レリエル迎撃作戦概要

富士山のレーダー監視所にも探知されることなく、第3新東京市上空に現れたパターン・オレンジ（未確認）の巨大な球体。NERV本部はこの物体を使徒と断定（この段階でのMAGIの判断は「保留」であった）する。住民避難の完了を待って、EVAチームを迎撃配置につかされた。作戦プランとしては、ビル群を襲って1機が先行、残り2機が援護しつつ目標に接近して反応をうかがい、可能であれば市街地域外へと誘導し殲滅する算段が立てられた。



## EVA初号機 戦力分析#1

装備 スナイパーガン

初号機が装備した火器は、近接射撃に威力を発揮する。ビストル型の銃器、ハンドガンである。取り回しに優れたハンドガンは、作戦エリアがビルの林立する市街地であることを考慮したものであり、近距離からの目標への直接攻撃、もしくは牽制に優れた装備であったと考えられる。



TACTICS SHEET

## EVA式号機 戦力分析#2

装備 スマッシュ・ホーク

式号機の装備は、出撃したEVAシリーズの中で唯一銃火器類ではない格闘戦用の大型武器、スマッシュ・ホーク。打撃武器として破壊力の期待できるスマッシュ・ホークは、目標に対して決定的ダメージを与えるための「とどめの一撃」を目的として装備されたと考えられる。



TACTICS SHEET

## EVA零号機 戦力分析#3

装備 スナイパーライフル

零号機の装備は、射程距離の比較長い大型銃器のスナイパーライフルである。中距離からの目標への射撃攻撃など、目標へ接近する初号機、式号機の後方からのバックアップを想定していたのだらう。そのため、作戦時における機動性は非常に低い。



## レリエル迎撃作戦要

浮遊する球体に対して攻撃が行なわれたものの効果は認められなかった。さらにその上、初号機のロストという最悪の結果を招き、攻撃は中止された。以後、作戦は初号機を回復するサルベージ作戦へと変更されることになる。

## レリエル迎撃作戦要

初号機が先鋒、残り2機がバックアップと各機への役割分担は現場のパイロット間の協議によって決定。そのまま作戦は実行されたが、いざ初号機が目標へ到達したとき、他の2機はまだ移動中だったにも関わらず、初号機パイロットは独断専行で攻撃を開始してししまう。そして、初号機に攻撃された使徒は、突如として消失。その直後、初号機は足下に拡がった謎の影（のちに使徒の本体と判明）へ沈降し、使徒内部へと取り込まれるという不測の事態に。この予想外の展開に対し、現場指揮官は作戦続行困難と判断。残るEVAシリーズには撤退命令が下された。

## 対レリエル戦作戦經過

TACTICS SHEET

## 1 戦闘配置、目標へ接近

市街地と空を浮遊する球体を発見と断定した発令時の指示に基づき、EVAチームは目標を三方から取り囲むような形で配置につく。目標の反応をうかがうため、初号機がまず先行して接近した。



市街地上空へ浮遊移動する目標に対し、EVA各機はビル群を縫っての軌道配置となった。そのため、アンビリーバブルケールの制限もあり、誘導に手間取る場面もあった。

## 2 初号機、独断で先制攻撃

いち早く目標地点に到着した初号機は、他の2機の配置完了を待ちきれず、独断で攻撃を開始。射撃後、目標は突如として消滅。その直後に初号機直下にパターン・ブルー（使徒）が確認された。



目標の突如消滅に到達した初号機は、バックアップの配置を待たず、単独でのハンドガンによる射撃を行い、破壊と欠いた行動を取ってしまう。

## 3 使徒の影へ初号機が沈下

急速に拡がった影の中へと初号機は呑み込まれてゆく。パイロットはパニック状態となり、ハンドガンを影へ向け直射するが、一切効果はなく、初号機はその中へと完全に没してしまふ。



初号機周辺の落下に出現した影状の物体。初号機は、攻撃も望みなく、命喪の危険への恐怖から、影の奥へとアツアツ引きずり込まれていった。

## 4 使徒、式号機側へ接近

式号機は初号機の救援に向かうが間に合わない。零号機は球体に向けて射撃を試みるも、またも着弾前に使徒は消滅。そして、より狭小した影の出現。式号機はビルを登りし回避した。



上空の目標に射撃を開始する零号機だが、初号機を呑み込んだ影は、鋭い刃で零号機を上下へ移動。式号機はビルを登り、かつして、回避に成功する。

## 5 作戦中止、撤退命令

第3新東京市西区の大半は、初号機と影に無。影の中へと沈んでしまう。だが、現時点で目標への攻撃、および初号機を救出することは不可能なして、式号機、零号機は撤退命令が下された。



ビル頂上へ到達した式号機。しかし、自ら落下し、拡がる影の中へと沈んでいく。撤退命令後、NERV本部はヘリからの目を定め、使徒の本格的な調査を開始する。

## 特記事項

## 作戦前日のハーモニクステスト

EVAシリーズを操縦する上で、パイロットにとって重要なものは、その技量や経験に加え「シミュレーション」と呼ばれるEVAとの直感/パターンとの同調にある。このシミュレーションが正確であれば、それがEVAをスムーズに操縦できるといえる。そのため、各パイロットは定期的な同調テストである「ハーモニクステスト」を定期的に行っている。第12使徒出現前日までのテストが行なわれており、そこで初号機パイロットであるシンジは、他の2名以上と高いシミュレーションを記録していた。この結果がパイロットの機体への繋がった可能性は高く、使徒迎撃作戦における初号機の独断専行に起因する一連の失態を招いた一因として挙げられる。



EVA01のシミュレーションスコアをモニターで表示するためのハーモニクステスト。遊撃隊は一機のコセントリプルマシン状態にある。

タクティクスシート

actics Sheet

第12使徒レリエル戦

Sheet

18

HE TWELFTH ANGEL LELIEL ANNIHILATION BATTLE

Illustration by (twb12) Toisyo Yuzawa

## 初号機サルベージ作戦

調査の結果、当初に使徒本体と思われた球体はあくまで影のようなもので、地面に拡がる形状の平面物体こそが、使徒そのものであることが判明。さらにその内部は虚数空間に繋がっていることが推論が立てられた。赤木リツコ博士は解析結果を基に、大量のn爆雷の爆発力とEVAのA.T.フィールドの相乗効果を利用して、使徒内部の虚数空間に干渉することで、初号機をサルベージすることが可能と試算。使徒に呑み込まれたパイロットの救出作戦を立案した。ただし、この作戦はパイロット救出よりも機体の回収を主眼としていたため、EVAチームの指揮を執る葛城三佐は、異議を唱えたようだ。しかし、結局は赤木リツコ博士の直接指揮によりサルベージ作戦は実行されている。それでも、初号機内に残されたパイロットの生存確率は高いと考えられていたため、パイロットの生存可能時間内に決行できるよう、準備は進められていたことを追記しておく。

## 2 EVAによるA.T.フィールド展開

TACTICS SHEET

作戦の第2フェーズでは、残存する2機のEVA——零号機と式号機が有しているA.T.フィールド発生機能を用いて、使徒内部を支えるA.T.フィールドに干渉。ただし、干渉可能時間は、わずか1,000秒間だけと算出されていた。



A.T.フィールドを用いた攻防は対使徒戦では、常に課題となっている。本作戦においては、2機の力で巨額の強固なA.T.フィールドに干渉しようとした。



## 1 n爆雷の投下

TACTICS SHEET

現存する992個のn爆雷を、使徒の中心部へと投下。全弾を爆発させることにより、膨大なエネルギーを使徒内部に繋がっている虚数空間へと送り込む構図であった。これが、サルベージ作戦の第1フェーズである。



対サキエノ敵でも使用されたn爆雷。1発でも破壊力は凄まじく、それを992個使用する予定であった本作戦は、最高爆雷数最大のリスクが大きかった。

## 3 初号機を使徒内部より回収

TACTICS SHEET

使徒内部を支えるA.T.フィールドが弱まったタイミングに合わせて、n爆雷による大文字の爆発エネルギーにより、繋がっている虚数空間ごと使徒を内部から破壊。それに乗じて初号機の機体を回収するものが、作戦の最終目的であった。



使徒内部に閉じ込められた初号機を回収する本作戦。1,000秒というタイミングが要求される、デリケートな作戦でもあったが、作戦決行直後に事件は起こる。

## 技術調査

## エントリープラグ内での生命維持

EVAに非常事態に備えた「生命維持モード」が存在する。このモードは消費電力を必要最低限に抑えることで、最大18時間までエントリープラグ内のパイロットの生存を可能にする。またプラグズー自身にも生命維持機能が搭載されており、相乗的に高いライフサポート能力を実現している。ただし、パイロットに酸素を供給するO.L.C.L.溶液の浄化能力には限界があり、溶液の汚濁はパイロットの死に繋がってしまう。従って、早期の救出が望ましいことには変わりはない。



パイロットの生命維持モードは、プラグズーでなく、ある程度の生命維持機能やサブシステムなども組み込まれている。

非常用の生命維持モード状態のエントリープラグ内。幽電状態であるため、モニタは常時シャットダウンされ、視覚も薄暗い。また、温度低下も著しい。

## レリエルの能力と内部構造

TACTICS SHEET

見た目には浮遊する巨大な球体として認識される第12使徒レリエルだが、その実体は地面に広がる直径680メートル、厚さ3mm(ナノメートル)という零薄の平面状物体である。球体はいわゆる「影」に相当する。レリエルの限りなく平面的なその内部は、A.T.フィールドによって見えられ「ディコックの命」と呼ばれる虚数空間と繋がっており、接触した対象物をその空間へと呑み込むことで「攻撃」するという特殊能力を有している。また、実体がその虚数空間を用いると、「影」である球体は崩壊するようだ。



ディコックの命という、異次元な状態を持つ球体。当初は使徒本体として認識された。それは誤りであった。



エントリープラグ内が見た、レリエル内部の虚数空間。空白の世界が広がっており、呑み込まれた物体は目撃できない。この空間はケーノーレーダーでも検知しないほど広大なものである。



赤木リツコ博士が作戦現場で示したレリエルの構造概念。超拡張理論と関連があるのが「ストリングス」という単語が理解できる。

赤木リツコ

赤木リツコ博士は、初号機の強制サルベージ作戦を立案するに当たって、レリエルの極めて特異な構造を迅速に分析推論する必要があった。博士は、それを作戦現場で行なったのである。

## 作戦報告

### レリエル戦における作戦結果

#### ①レリエル迎撃作戦

結論からいえば、本迎撃作戦は完全な失敗である。絶対的なデータ不足は否めないが、初期段階において目標を認識したままで立案された作戦プランに始まり、発令所を無視した現場の判断、初号機の機動性を欠いた先制攻撃など、とにかく粗が目立った。とくに初号機のロストなどは、慎重な判断さえあれば未然に防ぎ得る可能性もあったはずだ。



目撃できる機体は調査できないというプロブレムを、初期段階で把握できなかったことが作戦失敗の原因のひとつである。

#### ②強制サルベージ作戦

他社内部にロストした初号機の回収を主目的に立案された本作戦。実行直前に初号機が使徒内部より自力で脱出。同時に使徒をも粉砕したため、進行されることはなかった。だが、M爆薬を膨大な使用量するハイリスな作戦であったため、もし決行されていれば、成否に問わず、周囲にも甚大な被害が出ていたはずである。未遂に終わったことは幸いであったと言える。



断絶性と顕著さを要求される作戦ではあったが、初号機の自力脱出という意外な展開に、実行されることなく終わった。

## 追加報告

### 人類補完委員会による尋問

対レリエル戦において、人類補完委員会が興味を持つのが、初号機パイロットと使徒との接触の可能性であった。NERV本部に対して、委員会がパイロットへの直接尋問を要求したが、EVAチームの作戦指揮官である葛城三佐は、作戦終了後の疲弊しきったパイロットのコンディションを鑑み、これを拒否。自ら代理として委員会の質疑に応じている。委員会は初号機パイロットが使徒内部で体験した心理的衝撃を、使徒によるコンタクトと捉えており、予想しうる第13使徒以降の行動パターンへの影響や使徒の“人の心”に対する関心などを探る手がかりとしたかったと考えられる。

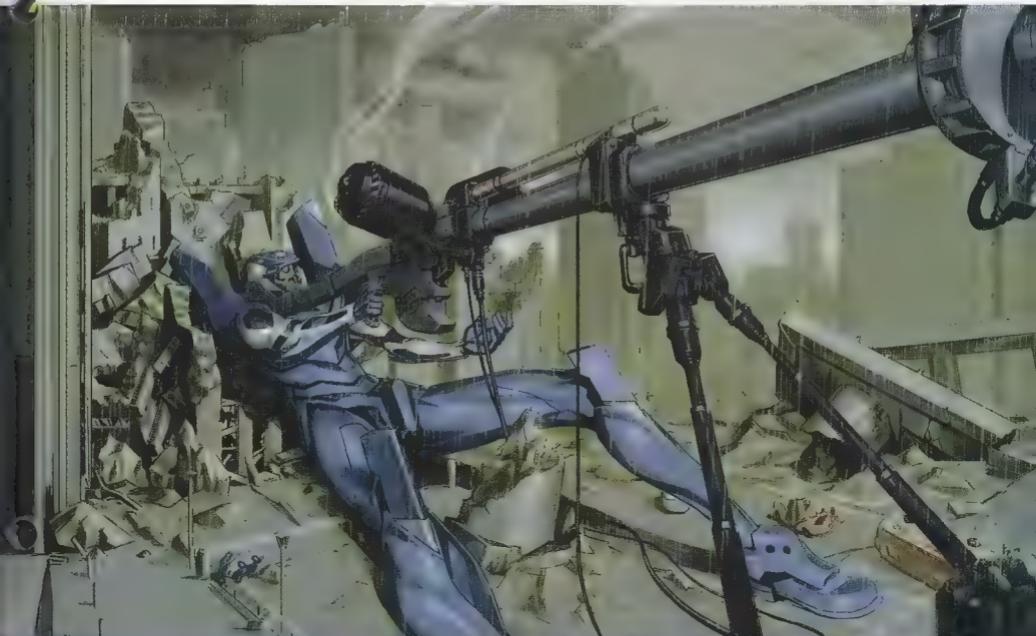


#### ◀葛城ミサト

人類補完委員会から尋問を受ける葛城三佐。実はこの尋問の場には、ゲンドウ陪審も同席し、傍聴していた。



作戦終了後、三佐は「影」の存在。それこそが、第12使徒の本体だった。だが正確を言おうと、初号機は影の中へと沈黙していくのであった。



自主開発電子銃として開発されていた試作機を、EVA用に改造したポジットロンスナイパーライフル。機体と同等の異なる構造で対銃するため、準砲兵隊による作戦遂行を企及せられるおかげで5機以上の機体も開発された。

## EVA銃火器類

EVA FIREARMS

火薬や様々な気体の圧力を用いて弾丸を発射（あるいは何らかの物体を高速度で射出）する。携行可能な武器——銃火器。その誕生には諸説があるが、その存在が実際に使用された瞬間に「力」の価値観を一変させたであろうことは、疑いようのない事実である。当然ながらその有用性は、それまで刀剣類、鎧類、矛状武器、投擲武器、射出武器が主兵器となっていた戦場において注目され、人類が繰り返してきた今日に至るまでの戦争の歴史の中で、用途ごとに進化を遂げて行くこととなる。銃については、大別すると片手で携行可能な小型銃——拳銃、長い銃身を備え拳銃をはるかに凌駕する威力と精度を誇る砲条銃——ライフル、数十〜数百発の弾が詰められた「散弾」を発射可能な銃——ショットガン、大型だが連射可能な機関銃——マシンガン、手榴弾程度の大口徑弾体を発射する砲弾発射筒——グレネードランチャー——といった様々な形態に派生。銃以外の携行火器については、歩兵が携行可能な小型のロケット砲——

ロケットランチャーといった、人以外をも破壊し得る強力な火器が生み出されている。

2015年に使徒の襲来に直面した世界において、対使徒戦の最前線に立つことを義務づけられた汎用人間決戦兵器・人造人間エヴァンゲリオン——。このヒトの形を有した超兵器もまた、必然的に相応の火力を有した銃火器を携行し、使徒に立ち向かうこととなる。そのEVAが使用した銃火器のほとんどは特定の国の軍事体系に依らず、EVAを建造したNERVという特務機関（あるいはその前身であるゲルヒン）の元で開発されたものであった。EVA専用の銃火器を開発するのであればEVA自体の建造と並行して進めることが望ましく、「レットライフル」「ハンドガン」「バズーカ」「ハンドバズーカ」といった様々な形態の銃火器が開発可能となったのも、偏にその意思であったといえよう。また、NERVの高度な技術により「実用化は不可能に近い」と言われていた衛星搭載タイプの銃火器も開発されるなど、結果的にEVAの銃火器類は質・量共に充実したものとなった。ただし、使徒は絶対的な堅壁として機能するA.T.フィールドを有していたため、有効打を与えるに至らない場合が多

かったとも言われている。

なお、NERVという機関は国連の一機関ではあるが、その存在が公にされていない（実質的には、対外的に真の姿が隠された）特務機関である。そのため、銃火器の開発費用は世界の代表たる国連から下りていたはずだが、額面については公表されていない。また、銃火器の中には劣化ウラン弾、EVA専用ポジットロンスナイパーライフルなど、その使用により環境や人体への影響が懸念されるものもあった。それにも関わらず、この懸念も、一般人はおろか第3新東京市の住民にすら公表されていなかった。これらの事実からNERVを解する声が上がることもしばしばあったが、量産の使徒を殲滅した後には人類補完計画が発動するまで、ついにNERVが追及を受けることはなかった。

## RELATED MATTERS

- EVA
- NERV
- 戦艦自衛隊
- 使徒



特務機関NERVが建造した汎用人間決戦兵器。零号機、初号機、第二号機も多量に開発後投入された。

## EVA専用の銃火器

使徒との戦いを見据えた

### 銃火器の特徴と運用

A.T.フィールドを持つため、通常の兵器ではまったく歯が立たない使徒。その未知の敵に対抗することを義務付けられたEVAのために、実体弾タイプの銃火器のみならず、A.T.フィールドを直接突破し得る陽電子砲タイプの銃火器開発も進んでいた。様々な状況に対応すべく開発された銃火器

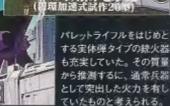
は、NERVの戦術作戦部(主に葛城ミサト)の立案した作戦に応じて活用されることとなる。ちなみに、EVAを有するNERVが各銃火器の開発当初からA.T.フィールドの存在を考慮していたことは想像に難くない。EVAが使徒に対抗し得る唯一の戦力と言われる所以は、その性能の高さのみならず、使徒との戦いを見据えた総合的な開発体制にあるといえるだろう。

材入した陽電子を粒子加速器内で加速し、光速度に匹敵する速度で発射する陽電子砲タイプの銃火器。明らかに対使徒戦を想定した兵器といえよう。



EVA専用陽電子砲  
(粒子加速器式試作タイプ)

バレットライフルをはじめとする実体弾タイプの銃火器も充実していた。その質量から推測すると、通常兵器として突出した威力を有していたものと考えられる。



## 特記事項

### A.T.フィールドの突破と中和

戦闘時におけるA.T.フィールドは、物理攻撃を激減する障壁の役目を果たす。強力な陽電子砲による高威力な「強力な外力」によって標的のA.T.フィールドを突破することは可能だが、標的を確実に捉えるためには十分な射撃準備を整えることが必須となる。そのため、比較的動きの少ない使徒に対しては陽電子砲タイプの銃火器による狙撃作戦が展開されたが、それ以外の使徒については、取り回しの悪い大型の陽電子砲タイプの銃火器で捉えることは困難であった。この場合には、A.T.フィールドを中和できる距離まで接近して無効化し、取り回しに優れた実体弾タイプの銃火器で攻撃を加えるという戦術が採られた。



遠方からの狙撃が有効となる陽電子砲に優越した距離に優れていたため、大型の陽電子砲タイプの銃火器を使用する機会も少なかった。



実体弾タイプの銃火器はA.T.フィールドを中和すれば効果を発揮したが、突撃には弾薬的に使われる場合が多かった。

### EVAが使用する銃火器の種類と特徴

EVAが使徒との戦闘で使用した銃火器は、基本的に実体弾タイプと陽電子砲タイプに分けられる。どちらもNERVが技術の粋を結集して開発し、既存の通常兵器をはるかに凌ぐ威力

を有することは間違いない。ただし、対使徒戦においてはA.T.フィールド、あるいは使徒自身の強固な外部装甲に阻まれることが多く、とどめを刺すに至らない場合がほとんどだった。



#### ●● バレットライフル ①

EVAの主力武器となる連射性能が高いマシンガンタイプの銃火器。弾薬の加速に電磁気力を利用した一種のレールガンで、鉄や鉛などの一般的な金属よりも比重が重い劣化ウラン弾を高速で撃ち出すため高い貫通力を誇る。

#### ●● ハンドガン ②

EVA専用の銃火器の中では最も小型で、近距離での戦闘を想定した拳銃タイプの兵器。なお、実体弾を使用する兵器であることは確かだが、その海軍に似かなる全金属が使用されているかは明らかになっていない。

#### ●● スナイパーライフル ③

後方支援隊が使用する狙撃用の銃火器。狙撃用スコープと二脚を標準装備し、命中率を重視した仕様となっている。ちなみに、同じ狙撃用のポジットロンスナイパーライフルとは異なり、実体弾を撃ち出すタイプである。

#### ●● バズーカ ④

ロケット推進式の弾体を撃ち出すロケットランチャー。全長はEVAの身の丈もあるため、迎撃戦のために用意された火器と考えられる。なお、その構造や弾頭(内部炸薬)などの仕様は明らかになっていない。

#### ●● ハンドバズーカ ⑤

EVA専用バズーカを小型化した携帯火器。機能的には、ロケットランチャー(あるいは無反動砲)に分類される火器と考えられる。なお、バズーカとはもともと米軍製ロケット発射器の愛称である。

#### ●● ポジットロンスナイパーライフル ⑥

戦艦奇襲隊つば技術開発本部から敬告した自走陽電子砲をNERVが改良したもので、第5機体ラウエルのA.T.フィールドを貫くために必要とされるエネルギー量1機8千万kWという莫大なエネルギーを蓄積して撃ち出す。

#### ●● EVA専用ポジットロンスナイパーライフル ⑦

陽電子(ポジット)を弾体とし、超速度で射出する陽電子砲タイプの銃火器。ポジットロンスナイパーライフルほどの大出力には耐えられないものの、携帯火器としてはバレットライフルをはるかに凌ぐ威力を誇る。

#### ●● ポジットロンスナイパーライフル ⑧

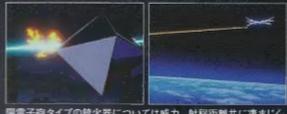
EVA専用ポジットロンスナイパーライフルにエクステンションバレルと望遠スコープを装備した改修モデル。長距離射撃が可能のほか、陽電子貯蔵ユニットが別銃式マガジンとなったことで連続発射も可能となっている。

#### ●● その他の銃火器

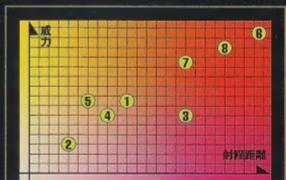
EVAが実際に使用した銃火器としては、これまでに紹介したものの以外にも大出力ポジットロンスナイパーライフル改が挙げられる。実際にポジットロンスナイパーライフルをスクラップドローン型に改造した両兵器は汎用性が向上した反面、火力面では原型機より劣り劣ったという。ちなみに、大出力ポジットロンスナイパーライフル改を含む9つの銃火器のほかにもいくつかの銃火器が用意されていたものと考えられているが、実戦で使用されたことはなかった。

### 銃火器の威力と射撃距離

EVAが使用する銃火器のうち、基本的に実体弾タイプは連射性能を取り回しに優れている反面、対使徒戦においては威力が足りない場合が多かった。一方、陽電子砲タイプは射撃距離、威力共に充実していたものの、移動に大きな制限が加わるなど、どちらも作戦内容に応じた運用が求められた。



陽電子砲タイプの銃火器については威力、射撃距離共に優れ、大気圏外を飛ぶのも射撃に収めることが可能であった。



上図中の番号は[EVAが使用する銃火器の種類と特徴]の各銃火器に対応。なお、大出力ポジットロンスナイパーライフル改については、威力、射撃距離共に、より一段階優秀なものと思われる。

## テクノロジーシート echnology Sheet

## EVA 銃火器類

Sheet

02

VA FIREARMS

### ■銃火器の使用例と効果

使用を厚めるために用意された様々なタイプの銃火器。実際の対使徒戦では、戦術作戦面により使徒のタイプに対応可能な装備の選択がなされていたようだ。しかし、EVAと対峙した使徒たちの態は戦術作戦面の予想を超えていた場合が多く、実際に使徒を仕留め得た銃火器は「バレットライフル」と「ポジットロンスナイバーライフル」の2点のみであった。



個体ごとに異なる能力を備えていた使徒。この未知の敵との戦闘においては、目と目の場合、銃火器自体の効果よりも相乗作戦の効果が顕著した作戦が重要であったといえる。

### ●●バレットライフル

対第4使徒戦に際し、様々な作戦でEVAが横行するバレットライフル。汎用性の高いこの兵器は、近一中全会戦が想定される使徒と対峙する際、情報戦に活用された。破壊力は火薬式銃器の比ではないといわれていた民間兵器だったが、A.T.フィールド等外部装甲に阻まれるケースが多かった。



連射に用いる補助的な銃火器とのイメージも強いバレットライフルだが、第9使徒との戦闘では、貫通力に優れた多発式ランチャーの効果も併発された。



#### 攻撃目標

第4使徒 **シムス**  
第7使徒 **イスラフェル**  
第9使徒 **マリエル**  
第13使徒 **バルディエル**  
第14使徒 **ゼルエル**

### ●●ハンドバズーカ

第14使徒迎撃作戦において式号機が使用したハンドバズーカ。取り返しの効かない高威力、遠射性の高い銃火器で、弾性は確実に爆的に轟撃する。ただし、第14使徒自体の外部装甲が強固であったため、第14使徒の動きを中和していたにも関わらず、決定打を与えられはしなかった。



ハンドバズーカを相手に構え、第14使徒を攻撃した式号機。しかしその攻撃は、バレットライフルの連射にも届かなかった強固な外部装甲に阻まれた。



#### 攻撃目標

第14使徒 **ゼルエル**

### ●●ハンドガン

対第12使徒戦のみで使用が確認されたハンドガン。バレットライフルと比べると火力こそ低いものの、第3新東京市市街地で戦闘において、目標への接近を優先するため用いられたものと考えられる。標的に向けて数発が打ち込まれたものの、ダメージを与えることはできなかった。



反動的に使用できるという利便性に富んでいたものの、その威力はまったく敵を脅かすことができなかった。ただ、他の銃火器でも、結果は同様であったと思われる。



#### 攻撃目標

第12使徒 **レリエル**

### ●●EVA専用ポジットロライフル

NERV開発による福音兵器タイプの銃火器。EVA専用ポジットロライフルが、対第7使徒戦において式号機が初めて使用した。ポジットロンスナイバーライフルと比し取り回しに優れており、標的の的確に狙えることが特徴であった。ただ、火力の減少は否めず、標的にとりあえず射すにはならなかった。



既述以上のとおり使用するEVA専用ポジットロライフル。第7使徒に対する攻撃は、作戦上、もとより標的の命中を想定していたものと考えられた。



#### 攻撃目標

第7使徒 **イスラフェル**

### ●●スナイパーライフル

第12、16使徒と、動きの少ない標的の対峙する際に活用されたスナイパーライフル。活用自体には問題がなかったものの、標的が実体弾の効果も疑問視される特殊な形状を持つ使徒であった。そのため、兵器としての特性を活かすことが叫ばず、効果を確認する機会にも恵まれなかった。



主に空中戦で使用している砲兵器。第16使徒との戦いは、標的に対して距離射撃が行われたが、ダメージを確認することはできなかった。



#### 攻撃目標

第12使徒 **レリエル**  
第16使徒 **アルミザエル**

### ●●ポジットロン 20X ライフル

望遠スコープを装備したポジットロン20Xライフルは、大気圏外に突如出現した第15使徒を狙撃するために使用された。射撃、火力に優れた同兵器だったが、その対距離砲撃から使徒の攻撃を受けたがためにその真価を発揮することはできず、苦しみ続けられた最終瞬間に放たれた閃電子が使徒に届くことはなかった。



EVA専用ポジットロライフルを改造し、閃電子の連続発射を可能とした砲兵器。第15使徒に対して連続発射を遂行したが、弾を撃てることはできなかった。



#### 攻撃目標

第15使徒 **アラエル**

### ●●バズーカ

第13使徒迎撃作戦において式号機が横行した大型のバズーカ。一発一発と轟轟する標的に対し、大火力の同兵器によって制敵攻撃を加えることが目的だったと考えられる。ただ、第13使徒の実質的な機動力が高かったため、胴撃に間に合えない恐れられ、使用すべきでないという結果に至った。



身の丈程あるバズーカを狙く式号機。標的の動速、アスカ・ラングレーが指摘していたように、発射し難く第13使徒を捉えることは困難であったと思われる。



#### 攻撃目標

第13使徒 **バルディエル**

### ●●大出力ポジットロンライフル改

ポジットロンスナイパーライフルを改造し、外部電源との接続なしに運用が可能となった大出力ポジットロンライフル改。第15使徒を狙撃するために使用された同兵器だったが、製錬機より火力が弱っていたため、標的のA.T.フィールドに届かず、ダメージを与えられなかった。



同兵器から発射された光速度に匹敵する閃電子も減速することなく第15使徒の元まで到達したものの、そのA.T.フィールドを破壊することはできなかった。



#### 攻撃目標

第15使徒 **アラエル**

## 実戦における銃火器の運用と 予想外であった使徒の能力

### 銃火器の実質的な役割

NERVの技術の粋を結集して開発された銃火器類ではあったが、対使徒戦における戦果は思わしくなかった。実際に銃火器で殲滅できた使徒は第5使徒ラミエル、第9使徒マトリエルの2体のみであり、実戦においては牽制に活用されることがほとんどであった。様々な状況に対応すべく開発されたEVA専用の銃火器ではあったが、使徒殲滅という目的を果たしたものは意外に少なかったといえるだろう。ただしこの結果は、各銃火器の性能が低かったということではなく、使徒の特徴が個体ごとに大幅に異なっていたためと考えるのが妥当である。仮にすべての使徒の能力が第3使徒サキエルと同様であったならば、結果は大幅に異なっていたはずだ。

銃火器を運用しにくい状況や十分なダメージを与えない使徒との戦いにおいては、自衛戦闘用の兵器プロトタイプナイフを主兵器として対戦した。



銃火器ではダメージを与えない使徒も多かった。結果的に使徒を殲滅する手段としては、EVAによる格闘戦や、指号線の暴走によることの方が多かった。

## 追加報告

### 銃火器が与える影響について

EVAが使用する銃火器のうちバレットライフル及び電子銃タイプの兵器は、共に環境汚染と人体に与える悪影響が懸念されている。バレットライフルの弾頭で使用されている劣化ウランは、発射後に放射される残留放射能が環境汚染や健康被害を引き起こすとされている。また、電子銃の兵器レベルでの使用を想定した場合、電子銃の対消波の際に相当量の電離放射線(ガンマ線)が生じることとなり、周辺地域に甚大な放射能汚染を及ぼす可能性が高い。

NERVの技術をもってすれば、これらの深刻な問題はすでに解決されているという可能性も考えられるが、その真偽については明らかにはされていない。



二子山頂上から放たれた指号線が高層新東京市上空を通過した際は、相当量のガンマ線が生じたものと思われる。

能力に主眼を置いた兵器の使用は、第3新東京市という地域の安全よりも使徒殲滅を優先した結果といえるだろう。



## 実戦における銃火器の運用と 予想外であった使徒の能力

### 銃火器の実質的な役割

NERVの技術の粋を結集して開発された銃火器類ではあったが、対使徒戦における戦果は思わしくなかった。実際に銃火器で殲滅できた使徒は第5使徒ラミエル、第9使徒マトリエルの2体のみであり、実戦においては牽制に活用されることがほとんどであった。様々な状況に対応すべく開発されたEVA専用の銃火器ではあったが、使徒殲滅という目的を果たしたものは意外に少なかったといえるだろう。ただしこの結果は、各銃火器の性能が低かったということではなく、使徒の特徴が個体ごとに大幅に異なっていたためと考えるのが妥当である。仮にすべての使徒の能力が第3使徒サキエルと同様であったならば、結果は大幅に異なっていたはずだ。

銃火器を運用しにくい状況や十分なダメージを与えない使徒との戦いにおいては、自衛戦闘用の兵器プロトタイプを主に兵装として対戦した。



銃火器ではダメージを与えられない使徒も多かった。結果的に使徒を殲滅する手段としては、EVAによる格闘戦や、指号線の暴走によることの方が多かった。

## 追加報告

### 銃火器が与える影響について

EVAが使用する銃火器のうちバレットライフル及び電子銃タイプの兵器は、共に環境汚染と人体に与える悪影響が懸念されている。バレットライフルの弾頭で使用されている劣化ウランは、発射後に放射される残留放射能が環境汚染や健康被害を引き起こすとされている。また、電子銃の兵器レベルでの使用を想定した場合、電子銃の対消波の際に相当量の電離放射線(ガンマ線)が生じることとなり、周辺地域に甚大な放射能汚染を及ぼす可能性が高い。

NERVの技術をもってすれば、これらの深刻な問題はすでに解決されているという可能性も考えられるが、その真偽については明らかにされていない。



二子山頂上から放たれた電子銃が高層新東京市上空を通過した際は、相当量のガンマ線が生じたものと思われる。

能力に主眼を置いた兵器の使用は、第3新東京市という地域の安全よりも使徒殲滅を優先した結果といえるだろう。

